

令和3年度第2回小田原市環境審議会

議事概要

- 1 **日時** 令和3年10月29日(金) 13:30~15:30
- 2 **場所** 小田原市役所 3階 全員協議会室
- 3 **出席委員** (9名)  
田中委員(会長)、森委員(副会長)、奥委員、増原委員、下田委員、尾崎委員、福澤委員、岩村委員、増田委員
- 4 **欠席委員** (3名)  
杉山委員、高橋委員、人見委員
- 5 **出席職員** (13名)  
環境部長、環境部副部長、環境部管理監、環境政策課長、環境政策係長、ごみ減量推進係長、環境政策課係員3名、エネルギー政策推進課長、エネルギー政策推進課副課長、環境保護課副課長、環境事業センター所長
- 6 **傍聴者** なし
- 7 **審議事項**

ア 小田原市環境基本計画の策定について

・令和3年度年次報告書(案)について(資料1)

事務局から資料1に基づき説明し、協議を行った。概要は次のとおり。

委員	26ページ、ごみ処理の広域化の検討について、小田原だけではなく箱根町、湯河原町、真鶴町と1市3町で進めるのは良いことだと思いが、具体的な検討内容の記載がないため、どのような方向で進んでいるか教えていただきたい。 埋め立て処分場について、容量がパンクする前に手を打つ必要があると思うが、どのように対応しているか教えていただきたい。
事務局	ごみ処理の広域化については、各市町の取組や状況について情報交換等している段階である。ごみ焼却場は現在の炉を基幹改良して延命処置をしたが、15年程度で建て替えが必要であるため、それに向けて情報収集を行っているところであり、現時点で具体的な取組はない。
執行部	埋め立て処分場の容量については、26ページにあるとおり、まずは焼却灰の資源化を推進し、焼却灰は県外への持ち込みで対応しているところである。そのため、残りの容量は増減があまりなく推移している。
委員	6ページ、二酸化炭素排出量の目標が達成できなかったということだが、主な理由を教えていただきたい。

事務局	<p>現時点の見解だが、再生可能エネルギーの導入や省エネの取組が想定よりも進んでいないことが理由の一つであると思われる。今後、報告書にも理由を表記したい。</p>
委員	<p>基本目標4の成果指標「森林整備面積」について、6ページの一覧の注釈と50ページの注釈の内容が整合していないので、修正されたい。また、どちらの注釈も意図が明確ではないため、いずれにしても統一し分かりやすく表記していただきたい。</p> <p>成果指標「緑地面積」については以前にも質問させていただいたが、平成27年度で把握は終了しており、平成28年度以降の現行計画では把握していないということで良いか。6ページには平成27年度の実績値が入力されているので、50ページにも記載をしたほうが良い。</p>
事務局	<p>「森林整備面積」の記載の相違については整合をとる。</p> <p>「緑地面積」については、ご指摘のとおり、担当所管に確認したところ、算定自体を平成28年度以降実施していない。</p> <p>50ページの総括評価の数値についても平成27年度の数値を入れる形で修正する。</p>
委員	<p>湯河原町真鶴町衛生組合はカバーで一般廃棄物最終処分場を造ったので、1市3町で取り組むのであれば利用させていただくなどの方向性もあり得るのではないかと。</p> <p>容量については、何年先まで大丈夫かを知りたい。ごみは出るものなので、焼却灰の資源化率9.3%は僅かであり、90%以上は処理しないといけないということになる。</p>
執行部	<p>広域化についてはステップを踏んで一元化に向かっていくとしている。現状では1市3町がバラバラ（3系統）に取り組んでいるため、まずは3町で統一（市と3町の2系統）し、並行して、小田原市は現在ある施設の延命化を行い、前述のとおり基幹改良工事を行っておよそ15年の延命を図った。清掃工場のあり方が課題になっており、その先に1市3町でのごみ処理の検討を進めることとなる（1系統化）が、ハード整備の問題だけでなく、分別区分の相違、例えばプラごみの扱い方にも差があるため、そういった課題を解消しながら進めることとなる。</p> <p>最終処分場についても、容量の残余は4年半程度と試算しているが、現在、市の政策として、最終処分場に埋め立てていくという方策をとってはならず、県外への持ち出しで対応している。その中で焼却灰の資源化も推進している。処分場の残容量を留保しているとは言え、広域化の枠組みにおいても検討すべき問題でもあるが、まずは次期清掃工場のあり方（候補地を含む。）について検討を進めていくこととしている。</p>

委員	<p>成果指標「不法投棄及び散乱ごみの撤去量」について、令和2年度の実績が6.63トンのところ、令和4年度の目標値が25トンと定めた理由は何か。</p> <p>本報告書については、冒頭に、「取組状況を市民の皆様へ報告するために作成した」との記載があるが、市民としてこれまで見たことがなかった。どのように広報し、市民の協力を得ようとしているのか、周知や活用の方法について教えてほしい。</p>
事務局	<p>目標値は、基準値とした平成21年度に26.98トンと多かったため、それよりも減らすことを目標として25トンとして計画上設定している。25という数値の理由は把握できていないが、令和2年度時点で環境意識の高まり等により既に目標より大幅に削減できているという状況である。</p>
事務局	<p>本報告書については、市のHPにおいて公表している。</p>
会長	<p>公表の方法はそのとおりだと思うが、どのように活用し市民の協力を得るのかという質問であったと思う。</p>
事務局	<p>HPに掲載を行ってはいらぬものの、実際に市民の目に触れているかというところではないと認識している。今回の総括評価の結果などから、達成できている部分はもちろん、特に達成できていない部分について周知し、取組への協力を仰ぐ必要があると考えている。現時点ではこれを生かして具体的なアクションは起こせていないので、現在策定中の計画において市民に伝わりやすい内容とし、取組につなげていきたい。</p>
委員	<p>現時点で達成できていない指標などについて、絞り込んで取り組んでいくなどの予定はあるか。</p> <p>また、一度は達成したものの、今後数値が悪化するリスクがあるものなどはあるか。</p>
事務局	<p>次期計画を策定するにあたり、現行計画の指標自体の見直しが必要だと考えている。以前の審議会でもご指摘があったが、特に目立つ成果指標として「有害鳥獣駆除件数」の増加などがあり、そういったものについてはより一層強化するような施策が必要であると認識を持っている。二酸化炭素の排出量については、国においても脱炭素の取組が強化されている中であるため、地球温暖化対策推進計画の中でどう取り組んで目標を達成していくかを検討していくこととなるとの認識である。</p>
委員	<p>湯河原町真鶴町衛生組合の施設は10年以上かかって建設している。大変時間等もかかる事業になると思うので、しっかり検討していただきたい。</p>
会長	<p>本報告書の成果の達成状況を踏まえて、次期計画の策定につなげ、</p>

	施策の強化を図っていくため検討されたい。
--	----------------------

- ・基本計画策定検討部会の経過報告について（資料2、資料3）
- ・新たな「望ましい環境像」について（資料4）

事務局から資料2、3、4に基づき説明し、協議を行った。概要は次のとおり。

委員	<p>資料3の1ページ目、イの2つめの項目に関して、地球温暖化対策推進計画・エネルギー計画策定検討部会としても受け止めさせていただいた。</p> <p>資料3の骨子案の2枚目について、森里川海の維持保全という項目の設定はとても小田原らしくて良いと思うが、成果指標となっている「森林整備面積」は資料1にもあったように、算定に時間がかかる場合は別の指標を検討しても良いのではないか。部会の中で細かく検討していただければと思う。</p>
事務局	<p>森林整備面積については、新たな総合計画で指標とする数値を取り入れている。現行の環境基本計画とは異なる算出方法となっており、現行では神奈川県の数値を用いているところ、小田原市域のみの数値であると聞いている。そのため、現在は県に数値を照会する時間がかかっているが、市域のみであればその時間が短縮できると思われる。</p> <p>現在示している指標は、より適したものや早く正確に取得できるものがあればそちらを採用することも検討したい。</p>
委員	<p>資料3の骨子案の成果指標の欄に書かれている指標は、資料1に示されている現行の指標に比べ抜粋されている印象を受ける。指標を減らすという意図なのか、抜粋なのかを教えてください。</p> <p>資料4について、地域循環共生圏、SDGs、環境経済社会、持続可能などを織り込んだマルチベネフィットを目指していることはとても良いと思う。一方、資料4の3ページにある②と③の違いが分かりにくい。特に②の代替案は元の案と意味することが異なっているように感じる。「持続可能性」の議論では「環境・経済・社会の統合的達成」が重要とされているため、②と③を合わせて検討しても良いかと思う。</p>
事務局	<p>現時点では骨子案に示している成果指標を計画に位置付けたいと考えている。指標が多くなればなるほど進捗管理が大変になるという側面もあるため、分野や取組ごとに最低一つということベースにし、</p>

	<p>適切な指標があれば新たに取り込むこともあり得る。3ページの森里川海に関する指標はここで新たに設定したいものである。</p> <p>資料4の3ページ、②と③について、ご指摘のとおり、重なってイメージされるような単語である。キーワードを多く取り入れたことで文字数が多くなっていると認識しており、より簡潔で伝わりやすいものになるよう、ご意見を踏まえて再考していきたい。</p>
会長	<p>資料3の骨子案について、部会で出た「歴史や文化を踏まえた景観や街並みについて含めると良い」を生かすことは良いと思う。分野4生活環境保全に該当するか、ぜひこの視点を取り入れていただきたい。</p> <p>資料3の4ページの分野5の「人と資金の循環創出」は、この言葉だけだと環境とのつながりが分かりにくいいため、場合によっては分野5と分野6の統合も含めて検討されたい。</p> <p>現行計画の分野の並びでは「多様な主体の活躍」といった内容が1番に来ており、骨子案では最後に来ている。現行計画から変えた意図があれば教えていただきたい。</p>
事務局	<p>景観の視点については、ご指摘のとおり対応しているところである。</p> <p>分野5については、説明の部分を分かりやすくしたり、名称自体を工夫したりするなど検討していきたい。</p> <p>現行の第2次環境基本計画も、策定当初は5つ目に分野横断的な施策が設定されていたが、平成29年度の改定の際に、基本目標の組み立て方を検討し、最初に持ってきた経緯がある。分野横断的な施策を最初にする・最後にするどちらでもあり得るが、今回は脱炭素の取組を大きな目標として最初に持っていきたいという意図もありこのような構成になっている。ご意見等を踏まえて最適な順番を検討していきたい。</p>
委員	<p>指標の考え方について了解した。多ければ良いというものではないという点は同感である。既存のものから減らす場合は、削除や変更する理由を整理しておくが良いと思う。</p>
会長	<p>望ましい環境像については、人によって価値観や様々な考え方があると承知しているが、あまり大きく変えない方が良いと考える。環境像に向かって取組を積み上げ、長期で目指していく大きな目標であると考えている。その中で、社会的な動向等を踏まえながら基本目標を設定</p>

	<p>していくのが良いのではないかと。現行の環境像を引き継ぎながら、新しい要素を入れ、継続性に留意しながら微調整をしていく方法が良いのではないかと。思う。</p> <p>ご意見を踏まえて部会委でも再度検討していただき、審議会本体とのキャッチボールをして検討を進めていただきたい。</p>
--	---

## イ 小田原市地球温暖化対策推進計画及び小田原市エネルギー計画の策定について

### ・地球温暖化対策推進計画・エネルギー計画策定検討部会の経過報告について

(資料5、資料6)

#### ・計画の統合及び目標について (資料7)

事務局から資料5、6、7に基づき説明し、協議を行った。概要は次のとおり。

事務局	<p>資料7について訂正。2ページにある【政府実行計画(改定案)の主な取組内容】について、10月22日に閣議決定されたため、(改定案)を削除していただきたい。</p>
委員	<p>資料7の2ページに記載のある政府実行計画の取組内容と小田原市の取組とをどのように整合性を図っていくのか。例えば、2030年にLED導入割合100%とあるが、この会場の照明もLED化されておらず、実践していくならば来年度の予算に組み込んでいくなど具体的な動きが必要だろう。</p>
事務局	<p>LED化は進んでいないと認識している。計画の中で国に合わせて100%を目標とできるかは検討が必要だが、可能な限り高い目標を掲げてそれに向かって進めていくという方針で取り組んでいく。来年度すぐに取組を始められるかという点、そこまで具体化はしていない。</p>
委員	<p>資料1において、現行の取組で目標達成に至らなかった理由として再エネと省エネの取組が挙げられたが、部門ごとに現在の課題を踏まえて今後の取組を検討されたい。</p> <p>2ページ上段の④に、部門別の削減目標は国の方針も踏まえて定めないとされているが、閣議決定された政府実行計画では参考値として部門別の目標を定め、部門ごとの取組についても詳細に書かれている。現在の骨子案上では部門ごとの取組が見えづらいため、今後の検討の参考とされたい。</p> <p>適応策に関して、国の適応計画も同じく閣議決定されたが、分野ご</p>

	<p>との対策として、農林水産業、災害などが記載されていることを念頭において検討されたい。</p>
事務局	<p>部門ごとの現行の課題については、整理をして新たな計画につなげていきたい。</p> <p>部門別の目標値については、国の目標を参考に記載しつつ、細かく突き詰めたところで正しい数値が出せるかということそうではないため、取組や施策を充実させることに注力していきたい。取組の内容については、部門ごとに国の取組と整合性を図っていきたい。</p> <p>適応策についても、国の適応計画を参考に分野別の対策をそれぞれ整理して位置付けていきたいので、引き続きご意見をいただきたい。</p>
会長	<p>資料7に記載の方針のとおり、地球温暖化対策推進計画とエネルギー計画を統合し、一体的に運用していくことは有意義である。地球温暖化対策を進める上で再エネ・省エネの取組は重要であるため、実効性のある計画にできるのではないか。一方で、計画の構成が複雑になりやすい。地球温暖化対策推進計画は法律に基づき、エネルギー計画は市の条例に基づくため、位置づけを明確にして分かりやすく見せていただきたい。</p> <p>適応策についてアンケート調査を実施するとのことで、適応策部分に絞ったアンケートを行う目的を教えてください。</p>
事務局	<p>適応策に関するアンケートについては、小田原市だけで数値的な指標や目標等を設定することが難しく、取組を評価していくために市民意識や認知度の向上、どの程度家庭での取組がされているかなどを指標として取り入れたいと考えている。アンケートにより現時点での状況等を把握し、次回行った際に良い方向に向かっているか進捗管理をしたい。</p> <p>このアンケート調査は市の広報広聴室で行っているもので、実施のタイミングが良かったこともあり、実施することとした。設問の具体的な内容については、次回の地球温暖化対策推進計画・エネルギー計画策定検討部会でお示しし、ご意見をいただきながら決定したい。現時点では、令和2年度に内閣府が行った気候変動に関する調査の内容を参考にし、全国と小田原市との結果の比較ができるような設問にすることも考えている。</p>
会長	<p>意識調査をする機会はあまり多くないため、今回は適応策を中心ということだが、適応だけでなくその他の環境分野全般のことをアンケートできるチャンスであるので、検討されたい。</p>

## 8 報告事項

ア 災害廃棄物処理計画（改定案）について（資料 8-1、2）

イ 第 6 次小田原市総合計画行政案について（資料 9）

事務局から資料 8、9 に基づき報告を行った。

## 9 その他

委員	資料 1 に関して質問があったが、市ホームページに載せているだけでなく、せつかくこのような報告を冊子にしているのので、広報紙に掲載したり閲覧したりできるようにするなど PR してほしい。
委員	国としてもカーボンニュートラルに向けた様々な実行計画を策定して事業を進めている。現時点での骨子案は具体性に欠けるため、実効性のある内容としていただきたい。
事務局	次回の日程について、部会の開催については、第 2 回基本計画策定検討部会を 12 月 22 日（水）10：00～12：00、第 2 回温対・エネ計画策定検討部会を 11 月 16 日（火）13：30～15：30 に開催する予定である。 また、第 3 回審議会は 3 月に開催する予定である。 それぞれ改めて通知させていただくのでご承知おき願いたい。

以上